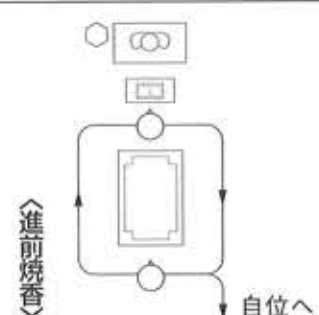
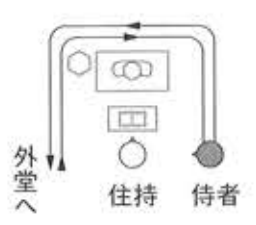

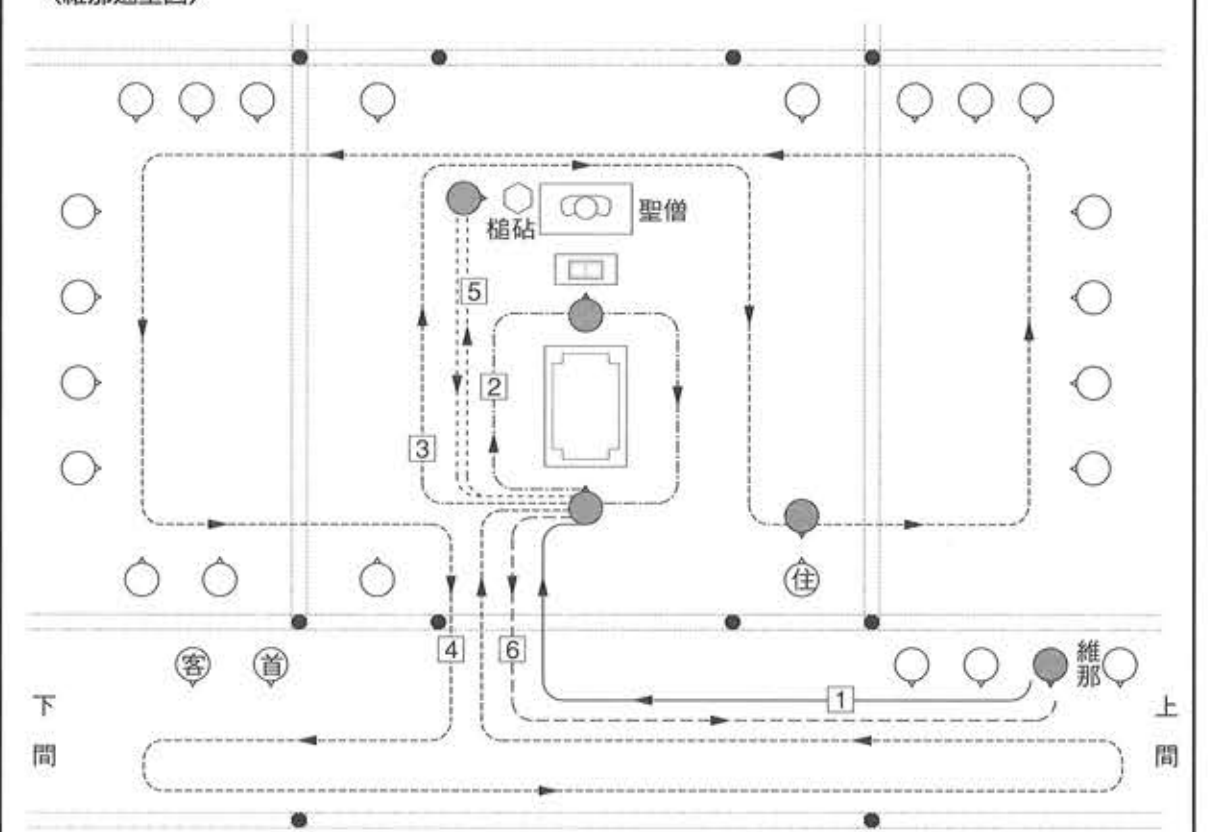


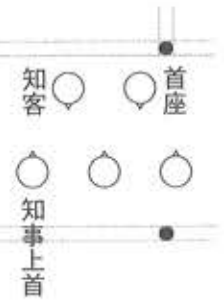
晋山結制法要便覽

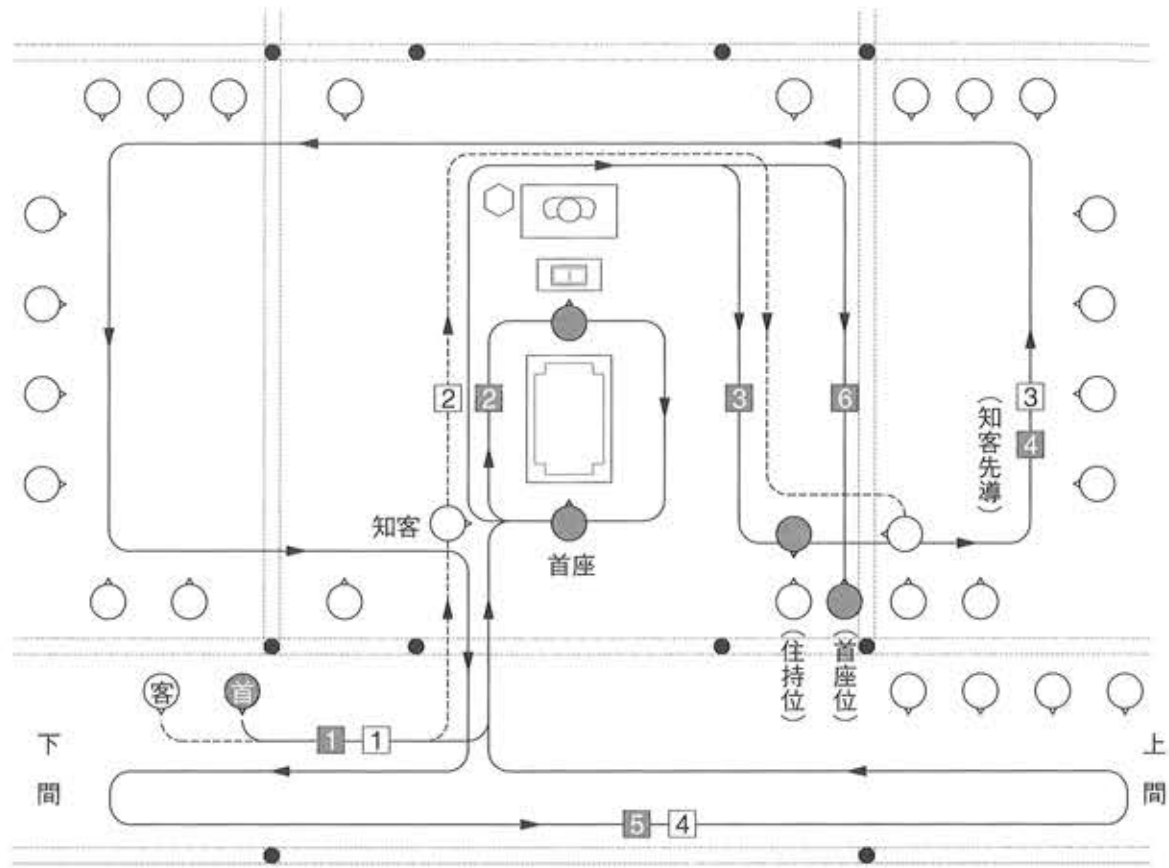
曹洞興禅会

殿鐘一会	住持	侍者	首座	知客	殿行
住持 七下鐘入堂	②七下鐘入堂、正中間 訊し、進前焼香。右転 して正中に帰位・問訊 し、自位に就く。	③入堂後、聖僧龕の後 ろを通り住持の右側に 付く。線香を奉呈し合 掌。住持の合掌低頭に 合せて問訊した後、合 掌のまま龕の後ろを経 て、外堂に出る。 〔線香無き時は、前門ま で付き従う〕	⑥知客に案内され外堂 の被位に立つ。	⑤版三打を聞いて、新 首座を引き、外堂(外 単)下間の版頭位に立 位。	①時至って殿鐘ゆるく 一会(打出しなし)。 大衆は着襪・搭袈裟・ 帶坐具にて入堂し、 各々被位に立つ。 住持入堂に合せ七下鐘
版三下					④住持、自位に就く 時、版三下。☒☒☒ (本来は客行が行う) ※別の法 第一打 住持聖僧問訊 第二打 就位隣位問訊 第三打 対坐問訊 ※又の法 第一打 正中問訊 第二打 自位への途中 第三打 就位隣位問訊

維那巡堂	維那	維那
維那白槌	知客・新首座が版頭位に就くを見て、自位を離れて、前門 左柱内を左足より入堂。 ①正中に問訊、 ②進前焼香し、また正中に戻り問訊、龕の後ろを通り、 ③住持の前に至り合掌問訊する(住持の命を受けるため)。 次に上間より下間へ合掌、軽く低頭して巡堂一巾し、 ④正中問訊の後、 ⑤槌砧の傍に至り(問訊して袱紗をとり手にかけて)、 打槌一下⑥して朗声に唱える。 〔今夏(冬)安居、適々堂頭和尚の慈旨を奉じて、○○上 座を請して前堂首座に充て令む。謹んで白す〕 (この間、僧衆合掌、維那は合掌不要) 唱え了って再び打槌一下し、槌砧に袱紗をかけ問訊。 ⑥合掌のまま正中に問訊し、外堂の本位に復り、隣位問 訊・対座問訊す(諸知事も同時に問訊)。 ※入堂して進前は叉手。 焼香して帰位は合掌。 住持の前までは叉手。 巡堂一巾は合掌低頭。	<p>〔維那巡堂図〕</p> 

首座 住持に致語	住持	首座	知客
三 展	<p>⑨首座の三拝目に合せて、答一拝。</p>	<p>②正中問訊し、聖僧前に進んで焼香、正中に戻り、大展三拝し、坐具を収めて立つ。</p> <p>④住持の前に至り、問訊し、両展三礼。坐具を展べんとする。</p> <p>⑥坐具を収め、合掌低頭して、又手にて初展に次の語を述べる。</p> <p>「新成乍入叢林、諸事生疎なり。過まつて和尚の差請を蒙る。下情恐懼の至りに任うること無し」</p> <p>次に合掌低頭し、袖より坐具を出す。</p> <p>⑧坐具を収め合掌低頭、又手に直し、再展にて、</p> <p>「即日気雲極めて喧かなり、恭しく惟れば堂頭和尚、尊候起居万福」</p> <p>と述べ、触礼三拝。</p> <p>※首座、三展の触礼三拝は本来、両展三礼なるも、住持よりの免停の意をくみ、三展に展座具三拝する法もあり。</p>	<p>①知事が自位に帰るや、直ちに首座を引いて入堂（左足より）し、礼盤の前に至って首座と共に問訊し、首座の左側・東向きに又手して立つ。</p> <p>③首座を引いて龕の後ろを通り、住持の前に至り、首座の左側・西向きに又手して立つ。</p> <p>〔備考〕</p> <p>※「生疎」…粗野でつたない。</p> <p>「差請」…招き入れられる。</p> <p>「下情」…自分の気持ちを謙遜していう。</p> <p>※「致語」の中の季語の言い換え</p> <p>冬…極寒（極めて寒し）</p> <p>秋…漸冷（漸く冷やかなり）</p> <p>夏…極暑（極めて熱し）</p> <p>春…漸暖（漸く暖かなり）</p>
再 展	<p>⑦首座が袖より坐具を出すのを見て、また右手にて免停す。</p>	<p>⑤首座が坐具を取り出し展べんとするのを見て、右手の掌上にして軽く上にあげ、それを制す（免停の意）</p>	<p>知客 ○</p> <p>首座 ○</p> <p>住持 ○</p>
初 展	<p>⑤首座が坐具を取り出し展べんとするのを見て、右手の掌上にして軽く上にあげ、それを制す（免停の意）</p>	<p>④住持の前に至り、問訊し、両展三礼。坐具を展べんとする。</p>	

知事 首座に致語 触礼三拝	知事	首座
賀 詞	<p>③首座の謝詞を受けて、賀詞を述べる。</p> <p>「衆を荷うこと才に当たたる、伏して惟れば歎慶」</p> <p>述べ了って首座と相揖し（合掌低頭）、末位先行にて帰位。</p>	<p>②知事と同時に触礼三拝し、収坐具の後、又手低頭して謝詞を述べる。</p> <p>「推揚を荷うこと有り、慚悚に勝えず」</p> <p>※推揚を荷う…推挙・推薦される。</p> <p>慚悚…慙悚に同じ。はじいり、おそれる意。</p>
謝 詞	<p>①維那が外堂の自位に就くを見て、知事上首は諸知事を率いて、新首座の前に至り、横一列に並んで相向って互いに触礼三拝（首座を勧請するための拜）。</p> 	



- 首座**——①入堂→正中間訊
 ②進前焼香→上拝敷・大展三拝
 ③住持に致語、両展三礼
 ④・⑤巡堂(知客先導)
 ⑥首座位へ

- 知客**——①首座を引いて入堂。首座の左側・東向きに、又手して立つ。
 ②首座を引いて住持前。首座の左側・西向きに、又手して立つ。
 ③～④首座が住持に致語の後、また首座を引いて巡堂。
 首座就位の後、外堂の自位へ。

就位	首座巡堂 巡堂一巾	知客	客	首座	座	大衆	衆
<p>⑤首座就位を了えて、合掌のまま龕の後ろを経て、外堂(外単)の自位にかえる。</p>	<p>①両展三礼了れば首座を引いて、上間より下間並びに外堂を巡堂一巾し、再入堂して、龕の後ろを経て、出入路を廻り、首座位に案内する。(次頁参照)</p>	<p>④巡堂一巾の後、知客に従い再び入堂し、龕の後ろを経て首座位に就く。首座位にて隣位問訊・対座問訊して、又手に直す。</p>	<p>②知客に従い、合掌低頭しながら巡堂一巾する。</p>	<p>③首座巡堂の時、大衆は各々、首座が近づき、通り過ぎるまで合掌低頭。</p>			